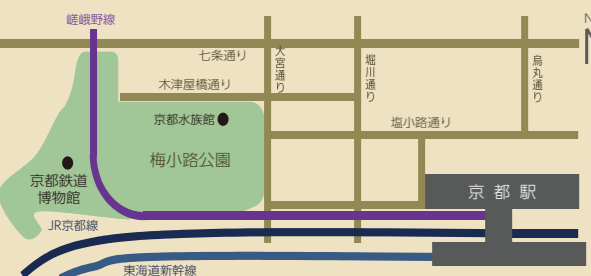


特集 次の一歩へ。

～地域共生企業をめざして～

地方創生に向けた動きが全国各地で広がりみせる中、鉄道を核に事業を営む当社グループは「地域を離れては存在し得ない」という認識のもと、西日本エリアの持続可能性への貢献のために、地域の皆様とともに西日本エリアの活性化を進めています。

本特集では、その「地域との共生」に関する取り組みの一端を、社内外からの声を交えながら紹介していきます。



京都鉄道博物館開業を契機に、 京都・梅小路エリアの更なる「つながり」を生んでいきます

[京都・梅小路エリア]

更なる賑わいの創出、 地域との共生をめざす博物館

国内最大級となる53両の貴重な車両、本物の蒸気機関車が牽引する「SLスチーム号」、現場最前線の現役社員による「鉄道おしごと体験」など、「見る、さわる、体験する」を重視した展示で、お客様に新しい発見と感動を提供しています。

地元企業・周辺施設などとの連携や、地元学校との産学連携を通じ、地域の更なる活性化や、鉄道に対する理解の促進、イメージアップをめざしています。



チーム「京都鉄道博物館」でお出迎え SLスチーム号へのご案内

Focus

京都鉄道博物館は、交通文化振興財団、JR西日本とそのグループ会社など、様々なエキスポが集結し運営されています。皆様は博物館の魅力や鉄道の歴史、鉄道技術などを楽しく学んでいただけるようおもてなしをしています。
(公益財団法人 交通文化振興財団/京都鉄道博物館 副館長 藤谷 哲男)

京都・梅小路エリアの賑わいづくりに 地域の皆様と取り組む

JR西日本京都グループでは、京都鉄道博物館の開業を契機として、京都・梅小路エリアの活性化をめざし、地元企業と連携して「京都・梅小路みんながつながるプロジェクト」を設立しました。以降、ともにエリアの持続的な賑わいづくりに取り組んでいます。

2016年8月には、京都鉄道博物館や京都水族館などの公園内施設や京都市と連携し、初めて「京の七夕」*1梅小路会場を開催しました。



イベントPR活動 「京の七夕」ライトアップイベント

Focus

周辺企業や京都市の皆様とエリアの賑わいづくり・回遊性の向上を目的に様々なことに取り組んでまいりました。社外の方と同じ目的を持って協働する中で、当社にはないノウハウを学ぶことができ、自分自身のスキルアップにつながりました。
(京都支社 総務企画課 中嶋 祥恵)

HP 京都鉄道博物館 <http://www.kyotorailwaymuseum.jp/>



HP 京都・梅小路みんながつながるプロジェクト <http://www.kyoto-umekouji.com/>



2016年4月、京都市下京区の梅小路公園内に「京都鉄道博物館」を開業しました。
この博物館は「地域と歩む鉄道文化拠点」を基本コンセプトに、京都・梅小路エリア一帯の活性化と鉄道文化の発展をめざしています。博物館の開業を契機として、これまで地域の皆様と取り組んできた「京都・梅小路みんながつながるプロジェクト」では、更なる回遊性の向上や賑わいづくりを進めています。

社内の声

地域の活性化という同じ目的を共有して 更につながりを深めていきます

地域の穏やかな日々の暮らしとまちの賑わい、この2つのバランスを意識して、様々な施策を実行しています。進めるのが困難に思えた施策も、自治体との協議や地域の方々との連携などにおいて丁寧に対話することにより実現できました。その結果、喜びや感謝の言葉をいただき、やりがいを感じています。これからも、地域の活性化という同じ目的を共有する仲間を増やし、地域とJR西日本がお互いに期待しあう関係性を築き、更につながりを深めていきたいと思っています。



自治会長との打ち合わせ



(左) 京都支社 総務企画課 福井 孝
(右) 広報部 鉄道文化推進室 主原 靖麻

社外の声

地域に目を向けていただき お互いに発展していきます

地域コミュニティに企業が参加いただき、地域には賑わいが生まれています。この賑わいを持続させ、広げていきたいと考えています。それには、区役所が横串機能を担い、地域と企業が継続してコミュニケーションを図り、意見交換や情報共有、新たな課題への対処を連携して行っていくことが大切です。

下京区の観光や文化など豊富で多様な魅力の発信やJR新駅開業による更なる賑わいなど、JR西日本に対する区民の期待は大きいです。これからも地域に目を向けていただき、お互いに発展していきたいと思っています。



地域の清掃活動を実施



京都市下京区長 廣野 貴夫 様

*1 京の七夕:七夕の伝統を引き継ぎつつ伝統産業や和装の復興などもめざして、京都市が事務局となり開催している京都ならではの現代版・七夕まつり。2016年度で7回目を迎えました



HP <http://twilightexpress-mizukaze.jp/>

2017年・春 美しい日本をホテルが走る

～上質さの中に懐かしさを～

[TWILIGHT EXPRESS 瑞風(みずかぜ)]

地域の皆様と 新たな価値を創り出す

「TWILIGHT EXPRESS 瑞風」立ち寄り駅の1つである山陰本線東浜駅は、眼前に世界ジオパーク※1に認定された浦富海岸が広がる、「美しい日本」を体現する駅です。現在この駅を中心としたエリアを地域の皆様と一体となり活性化しようとしています。「瑞風」の運行にあわせて浦富海岸を一望できるレストランが、地元自治体により開業される予定もあり、地域と一体となって「瑞風」の運行を迎えようとしています。



2016年5月
「瑞風」のおもてなしの検証として地域の皆様と地引網を実施

「瑞風」ならではの「おもてなし」を提供するために

「トワイライトエクスプレス」における豊富な経験を持つ(株)ジェイアール西日本フードサービスネットの社員が車内クルーとして乗務するなど車内サービスの運営を担います。また、社内公募で集まった社員が、現在おもてなしの研修を受けています。「トワイライトエクスプレス」の伝統を引き継ぎつつ、「美しい日本をホテルが走る」というコンセプトにふさわしいおもてなしを提供できるようクルー一丸となって準備を進めています。



(株)帝国ホテルより出向中の川上聖子サービス担当部長による研修

社内の声

心がつながり、感動が生まれる きっかけづくりをします

鳥取エリアにおいて、地域色が豊かで持続可能なおもてなしや観光先との調整を進めています。地域の皆様は「瑞風」運行を契機に地域を盛り上げていこうと自発的に様々な取り組みをしてくださっています。地域の皆様と山陰へお越しのお客様との心がつながり、感動が生まれる、そんなきっかけを作りたいと思っています。

地域があるからこそ私たちJR西日本があるということを通して地域が潤うように、これからも取り組んでいきます。



地元大学生との意見交換



米子支社 山陰地域振興本部 鳥取派出 課長代理 島 亮

社外の声

「瑞風」を通じて、町全体が 活性化されることを期待します

少子高齢化や人口減少という課題にいかに取り組みかという時期に、「瑞風」の立ち寄り先として岩美町・東浜が選ばれました。町の持つ自然や食をアピールできる機会であり、賑わいを取り戻す大きなチャンスだと思っています。町民にも「瑞風」に関わりたいという気運が高まっており、自治会などを中心におもてなしの準備を進めています。

「瑞風」を通して、自分たちが暮らす町への自信や誇りをもち、様々な資源を磨き、ブランド力を高め、町全体が活性化されること、そして、移住や定住につながることを期待しています。



おもてなしのため、地域の皆様が「東浜音頭」を練習



岩美町長 榎本 武利 様

※1 世界ジオパーク:世界ジオパークネットワークに加盟認定されているジオパーク(大地の公園)

※2 トワイライトエクスプレス:青函トンネルが開通した翌年の1989年から2015年3月まで運行した大阪~札幌間をつなぐ寝台列車。日本海に沈む夕陽を車窓から眺められる最高の眺望と、クルーによるおもてなしで長年多くのお客様に愛されました



せとうちの魅力をもっとお伝えしたい エリアを周遊し、楽しんでいただける仕掛けづくり

[せとうち・観光列車「La Malle de Bois(ラ・マル・ド・ボア)」*1]

2016年4月に宇野みなと線にてデビューした観光列車「ラ・マル・ド・ボア」は、夏からは瀬戸大橋で海を渡り「高松」へ、秋からはサイクリストの聖地であるしまなみ海道の玄関口「尾道」へ運行します。「ラ・マル・ド・ボア」が走ることでせとうちエリアへの注目度を高め、同エリアにおける広域周遊の推進と地域活性化をめざしています。

社内の声

地域の皆様とともに、
岡山を旅の拠点として盛り上げます

「ラ・マル・ド・ボア」は、岡山DC*2や瀬戸内国際芸術祭*3を鉄道会社らしく盛り上げたい、という思いから生まれました。観光列車の運行には社内外の多くの方々との連携が必要で苦労もありましたが、何事も関係者が力を合わせれば実現するという自信にもつながりました。今後、山陰・山陽・四国のターミナルに位置する岡山が観光拠点となるとともに、「ラ・マル・ド・ボア」をシンボルとして地域の皆様とせとうちを盛り上げていくための一助になればと思っています。



岡山支社 営業課
岩崎 優

社外の声

アートで非日常の空間を作り出し、
地域の活性化へ！

「ラ・マル・ド・ボア」の走る宇野みなと線常山駅で「田んぼアート」、山陽本線笠岡駅で「フラワーアート」を手がけました。アートが作り出す非日常の空間が、人の心を動かし、その場所に向かわせ、それが波及していくことで地域が活性化します。

JR西日本とは「吉備之国くまなく旅し隊*4」でも協働しています。これまで光の当たらなかった地域に眼を向け、チャンスを与えてくれている点を嬉しく思います。今後、歴史や文化などのテーマを持った駅づくりなど、駅そのものが魅力になることにも挑戦していきたいです。



フラワーエンターティナー
萬木 善之 様

せとうちエリアの 活性化に向けて

当社は、岡山・尾道・広島を核としたせとうちエリアの「広域周遊ルート」の創出を進めています。観光列車「ラ・マル・ド・ボア」の運行や、地域産品の発掘・発信、エリアの拠点の一つである尾道駅の建て替え(2018年夏頃開業予定)、せとうちのブランド化をめざして2016年4月に設立された一般社団法人せとうち観光推進機構への参画など、様々な施策を推進しています。

*1 観光列車「La Malle de Bois(ラ・マル・ド・ボア)」:「La Malle de Bois」はフランス語で「木製の旅行鞆」を意味します。旅支度をする特別な時間を楽しんでいただきたいの思いを込めています
*2 DC(ディスティネーションキャンペーン):JRグループ6社と自治体、地元の旅行会社などが共同で実施する大規模誘客キャンペーン。2016年4～6月に岡山で開催
*3 瀬戸内国際芸術祭:瀬戸内海の島々を舞台に開催される現代アートの国際芸術祭。2010年に第1回、2013年に第2回が開催され、2016年3月～11月に第3回が開催されています
*4 吉備之国くまなく旅し隊:岡山・備後エリアの魅力と地域の皆様とともに掘り起こし発信していく取り組み



北陸「ならでは」が詰まった列車で 文化・食をはじめとした地域の魅力を発信します

[北陸・七尾線観光列車「花嫁のれん」*5]

2015年3月の北陸新幹線開業以降、現在も多くのお客様に北陸へお越しいただいています。観光列車「花嫁のれん」は北陸の伝統工芸である輪島塗や加賀友禅をイメージし、北陸の和と美を満喫いただける列車として運行しています。移動手段としての列車の枠を超え、「花嫁のれん」をきっかけとして、北陸の豊かな自然・文化・食などの魅力を広くお伝えします。

社内の声

季節感や地元の特徴を大切に、
常に新しい魅力を発信します

「花嫁のれん」では、北陸の和と美を車両で感じていただくだけでなく、ソフト面も大切にしています。車内では北陸の食や伝統工芸品でお迎えするとともに、地域の皆様にご協力いただき「楽市楽座*6」を開催しています。喜んでくださるお客様の声を間近で聞くととてもやりがいを感じます。今後も地域の皆様とともに、お客様から更に愛される列車にしていきたいです。そして、季節感や地元の特徴を大切に、常に新しい魅力を発信することで、北陸に二度三度お越しいただきたいと考えています。



車内に展示している伝統工芸品



金沢支社 営業課
松浦 奈美

社外の声

おもてなしの気持ちを大切に
関係者各々がしっかりと連携していきます

金沢以北の市町が一体となって、念願の観光列車である「花嫁のれん」を盛り上げています。「能登は優しや土までも」と表現されるように、おもてなしの気持ちを大切に、「楽市楽座」では、これまで十分に伝えきれていなかった地域の魅力を発信しています。自らが力強く発信していくことによって、金沢から先の地域への広域観光や宿泊につながると考えています。これからも、JR西日本や地域の方々をはじめ関係者各々がしっかりと連携し、地域の活性化を図っていきたくと思っています。



「楽市楽座」の様子



七尾市 産業部 観光交流課 専門員
藤本 和也 様

*5 観光列車「花嫁のれん」:婚嫁の際に娘の幸せを願い、色鮮やかなのれんを持たせる「花嫁のれん」という伝統文化を列車名に取り入れ、旅を通じて幸せになっていただきたいの思いを込めています
*6 楽市楽座:金沢以北の13市町が毎週土・日曜日に週替わりで実施している、伝統工芸の披露や地元産品の試食・販売などの地域色豊かなイベント



誰もが「ずっと住みたい」と思えるまちづくりを

【塚口駅前開発プロジェクト「ZUTTOCITY(ズットシティ)」】

2016年4月にまちびらきした「ZUTTOCITY」は「周辺にずっと広がり続ける、ずっと住みたくなる街」をめざしています。暮らしに便利な駅ビルや駅前広場の整備により、駅を中心としたまちづくりを実現するとともに、公園や緑地を配置し、緑豊かで潤いのある都市環境を形成しています。またエネルギーマネジメントに積極的に取り組み、尼崎市から「尼崎版スマートコミュニティ^{※1}」に認定されています。更に、駅ビルやマンションを津波避難施設とし、街区の中心に防災倉庫を配置するなど、安全と安心を提供しています。

社内の声

駅から始まるまちづくりに取り組みます

「末永く愛されるまちにしたい」という思いで、駅とまちをつなぐ駅ビル開発に臨みました。初期の計画案では、駅ビルを通る駅からまちまでのスムーズな動線、駅前広場計画などが不十分で、駅を起点として広がるまちの重要な機能が不足していると感じたため、地域の発展につながるようすべきだと強く発信し、他事業者や自治体の皆様と協力しました。その結果、住民や地域の皆様が利用しやすい形にでき、自身の喜びと誇りにつながりました。

まちづくりは一見華やかですが、地道な協議の積み重ねです。これからも、住民や地域の皆様から喜ばれる「駅から始まるまちづくり」に誠実に取り組んでいきます。



JR西日本不動産開発(株)
都市開発部 開発Ⅱ課 係長
鳥羽 幹浩

社外の声

行政と連携して多様な主体をつなぐ コーディネート役に期待しています

「ZUTTOCITY」の開発にあたっては、環境モデル都市である尼崎市のビジョンを共有いただき、ゆとりと潤いのあるまちづくりをしていただきました。地域の強い要望であった駅へのバリアフリーが実現するなど、周辺にお住まいの方にも喜んでいただいています。ブランド力のあるエリアとなり、更に広がっていくよう、尼崎市としても取り組んでいきたいと思っています。

今後、駅を中心に、住居、病院や文化施設、商業施設などを集積したコンパクトシティ化が大きな流れとなります。JR西日本には、多様な主体が手をつなぐためのコーディネート役を行政と連携して担っていただくことを期待しています。

「ZUTTOCITY」で
市制100周年を
記念した人文字を作成



尼崎市長
稲村 和美 様

※1 スマートコミュニティ：街全体の電力の有効利用や再生可能エネルギーの活用などを、都市の交通システムや住民のライフスタイル変革にまで複合的に組み合わせた社会システム



地域ニーズを踏まえた医療提供を通じて 地域の皆様に親しみを感じていただける病院へ

【大阪鉄道病院、JR広島病院】

大阪鉄道病院・JR広島病院はかつて日本国有鉄道職員の健康を守ることを主として運営されてきました。現在は、広く一般診療を行っており、患者様をはじめ地域の医療機関・住民の方々とのつながりを大切に、皆様に安心してお越しいただける病院をめざしています。これからも幅広い医療提供を通じ、地域の健康を支える地域中核病院としての責任を果たしていきます。

社内の声

より身近に感じていただける 病院づくりを進めます

2015年の創立100周年の節目にこれまで支えてくださった地域の皆様や患者様に感謝の気持ちを伝えたい、との思いから「オープンホスピタル」の開催を提案しました。初の試みでしたが、地域の皆様や患者様が、当院に親しみを感じていただくきっかけになったと感じています。また、準備・運営を通じて社員間のコミュニケーションが広がり、チーム医療の推進につながる良い機会となりました。これからも誠実な医療提供、親切・丁寧な対応を大切にし、地域に開かれた病院をめざしていきます。



オープンホスピタル



大阪鉄道病院
副看護部長
田村 恵子

※2 オープンカンファレンス：地域の医療関係者を交えた研修会

※3 地域医療連携室：地域の医療機関から患者様の紹介を受ける、退院患者様の支援を行うなどの窓口を担っています

社内の声

人と人をつなぎ、だれもが安心して 暮らせる地域医療を実現します

病院は、「ホスピタル」の語源でもある「ホスピタリティ」の場です。当院は病気を治すだけではなく、例えば患者様とご家族が気軽に集えて話し合える環境の整備や、医療・介護職者を対象にした研修会、オープンカンファレンス^{※2}などで、地域の医療情報ネットワークの中心となる病院をめざしています。その中で私たち地域医療連携室^{※3}の使命は、人と人を「つなぐ」こと。だれもが住み慣れた土地で安心して「生き切る」ことができる、そんな地域医療を実現していきます。



医療福祉相談のための打ち合わせ



医療法人JR広島病院
地域医療連携室 副室長・副看護部長
竹井 里美